

3. 教員共同研究報告（研究会費）

地域の活性化を通じた高齢者の生きがいづくりに関する研究 ～十津川村谷瀬集落をフィールドとして～

奈良県立大学 神吉 優美

奈良女子大学 室崎 千重

1. はじめに

平成23年の台風第12号で甚大な被害をこうむった十津川村は、元々過疎地域であり、復興を機に、『安全で心の休まる集落づくり』を基本方針とした新たな集落づくりを進めている。先行的モデル集落として高森・谷瀬集落が選定され、当研究ではこの谷瀬集落（人口55人・高齢化率67%）を調査対象地としている。谷瀬集落では、地域の活性化を通して“高齢者の生きがいづくり”が目指されており、具体的には、寄合（住民ワークショップ）において、観光客誘致の環境整備や高齢者の居場所づくり、（めはり寿司等の）加工場の整備等の検討が進められている。

これらの新たな集落づくりに向けた取り組みを継続していくためには、どのようなことが課題となっているのか？谷瀬集落全世帯を対象としたヒアリング調査から、取り組みの成果と現状の課題を把握し、今後の取り組み手法について検討する。

2. 谷瀬集落で取り組む” ゆっくり散歩道” の概要

谷瀬地区には、谷瀬の住民が生活用通路としてお金を出しあって建設された全長297mの“谷瀬の吊橋”がある。村内一の観光スポットとして年間14万人が訪れているが、これまで、谷瀬の住民は集落内への観光客の立ち入りは敬遠してきた。しかし、地域の活性化に向けた観光客誘致の取り組みのひとつとして、集落内の風景を楽しみながら散歩してもらい、山の中の森山神社にお参りし、新たに整備した展望台から谷瀬の吊橋を一望する“ゆっくり散歩道”を住民の手によって整備（2014年4月完成・図1）し、観光客を集落内に受け入れはじめています。

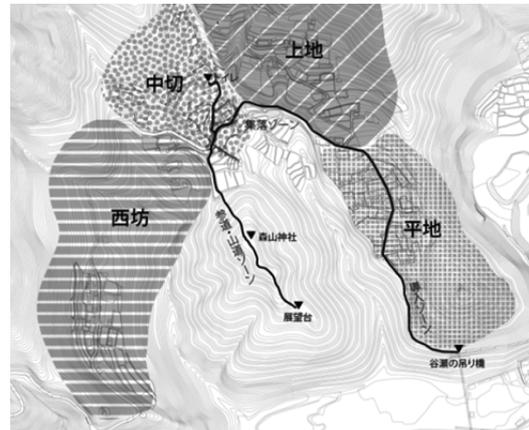


図1 ゆっくり散歩道のルート

3. 調査の概要

1～2ヵ月に1回開催される寄合への参加による参与観察と谷瀬地区の住民22世帯29人に対して実施したヒアリング調査（2014年11月1日～12日）を実施した。ヒアリング

項目は、①対象者の属性、②日常生活の様子、③ゆっくり散歩道などの取り組みについて、④移住者の受け入れについてである。ヒアリング調査対象者の属性を最終頁に参考資料として示す。

4. ゆっくり散歩道などの取り組みの成果と課題

ゆっくり散歩道などの取り組みの成果と課題が明らかになった。以下に順にみていく。

① 特定の住民における作業の偏りと体の不自由な高齢者の孤立

新しい集落づくりの取り組みについて話し合う寄合への参加と、集落内の行事への参加との関係を見ると（図2）、集落内の行事への参加度が高いほど寄合にも参加しており、集落の仕事に参加するメンバーが固定化していることが覗える。また、日常の行動範囲と寄合への参加の関係を見ると（図3）、行動範囲が家の周辺の人、寄合に全く参加していない。行動範囲が広い人ほど、寄合に参加する割合は増加している。行動範囲が家の周辺の人、5人全員が高齢者である。

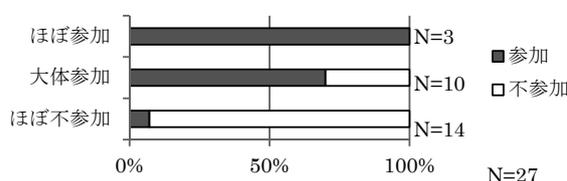


図2 行事参加別寄合参加状況

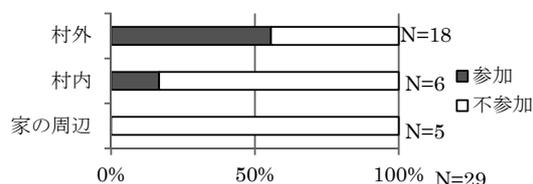


図3 行動範囲と寄合の参加状況

高齢者と高齢者以外に分けてみると、高齢者の寄合の参加率が低いことが確認できる（図4、図5）。高齢者の不参加の理由は、体が不自由だから（3名）、世帯内で他の人が参加しているから（2名）等、高齢者以外の不参加

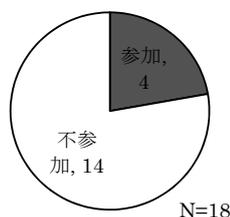


図4 高齢者の寄合参加比

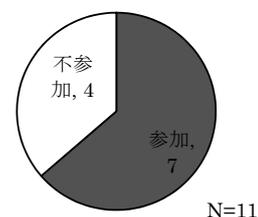


図5 非高齢者の寄合参加比

の理由は、仕事と被っているから（2名）、世帯内で他の人が参加しているから（1名）等となっている。つまり、体が不自由になり行動範囲が家の周辺に限られている高齢者は参加できていないこと、仕事で忙しくて参加できない人もいるため特定の住民に集落内の仕事が偏っている現状が把握できた。

② 取り組みの良い点、懸念点

取り組みの成果と今後の課題を、寄合参加者と不参加者の回答は共通する点も多いが、違いのある意見に着目して見ていく。

まず、取り組み（プロジェクト）の楽しい点・懸念点についてみる（表1、表2）。寄合参加者は、『楽しい・良い点』として、「みんなで一緒にやること」「目標を持ってやること」を評価する一方、『困る・懸念点』では、「忙しい」という意見があり、特定の人への仕事の偏りへの負担感があることがわかる。寄合不参加者は、良い点としてうっそうと茂っていた木を「伐採して明るくなった」点を挙げている。

次に、観光客が集落内に来ることによる良い点・懸念点についてみる（表3、表4）。寄

合参加者は、『良い点』として、「観光客に感想を聞くこと」を挙げており、ゆっくり散歩などの感想を観光客から直接聞くことで成果を確認している。

寄合不参加者は、仕事で不在等や高齢者は家から離れた散歩道の様子を知ることが難しいため、直接的に成果を感じる機会が少ない。しかし、良い点で挙げられた「伐採して明るくなった」のように、観光客のためだけではなく、自分たちの生活環境の改善に繋がる内容は実感をもって評価されている。取り組みを進める上では、観光客のためという視点だけではなく、それらの整備が住民の日常生活の環境向上にもつながる視点を持って整備をすることも、取り組みが住民に受け入れられる上で重要であろう。

表1『プロジェクトの楽しい・良い点』の回答

		プロジェクトの楽しい・良い点	票
寄合参加		みんなで一緒にやること	3
		人が来ること	2
		目標を持ってやること	2
		谷瀬が活発になること	1
		花の成長が楽しみ	1
寄合不参加		人が来ること	3
		景色が良い	1
		伐採して明るくなった	1
		季節を楽しめる	1

表2『プロジェクトの困る・懸念点』の回答

		プロジェクトの困る・懸念点	票
寄合参加		忙しい	3
		マナー	2
		夜道での散歩によるケガの心配	1
寄合不参加		盗難	1
		マナー	1
		知らない人が間違って入ってきた	1

表3『観光客が集落内に来て良い点』の回答

表4『観光客が集落内に来て困る・懸念点』の回答

③ 体の不自由な高齢者の地域づくりへの参加の検討

寄合に参加できておらず、体が不自由となり家の周辺のみでの行動範囲であるため取り組みの成果についても直接感じる事ができない高齢者5名の回答を表5にまとめる。高齢者たちは、健康なときは集落行事に参加していた人たちであり、取り組みにより集落内に人が来ることに好感をもっていることがわかる。この中には、かつて総代として積極的に地域づくりを提案している人も含まれている。

		観光客が集落内に来て困る・懸念点	票
寄合参加		ゴミの放置	3
		マナー	2
		治安の低下	2
		盗難	2
		夜の散歩	1
寄合不参加		ゴミの放置	2
		盗難	2
		空き家何かされるか不安	1

表5 体の不自由な高齢者の回答

		集落内の行事への参加状況	観光客が集落内に来て良い点	今後の移住者の受け入れ意向
女	80代		人が入ることはいいことと思う。	人が増えるのはうれしい。
女	80代	一昨年はゆべし作りに参加していた。昔はいろいろ参加していた。今は腰が痛くて無理。		
女	80代	足が悪くなってからは行かなくなった。	良いと思う。話が出来る。	
男	80代	参加していない。集落のまつり等には、お供えを提供するが参加は出来ない。		人が来たら谷瀬が栄えるので受け入れたい。
女	80代			

現状は取り組みに参加できていない高齢者も、集落に愛着を持っており、無理なく地域づくりの取り組みに参加できる工夫が望まれる。

5. まとめ

新しい集落づくりに向けた環境整備は、谷瀬の住民からの評価を得られており、今後も継続して頑張ろうとしているところである。しかし、体が不自由となり外出範囲が家の周辺に限られるようになった高齢者は、話し合いの場や実際の活動に参加する機会がなくなり残されていることが明らかになった。これらの高齢者も、集落に愛着を持つ人が多く、集落内に人が訪れるようになったことを喜んでいる。自宅内で昔語りをするなどの、外に出なくてもできる観光客にとって魅力的なメニューを取り入れることで、元気な人だけではなくより多くの高齢者が取り組みに参加することが可能となる。観光客とふれあい、直接に成果を感じる機会を持つことにより、より多くの高齢者の生きがいに繋げることができると考えられる。

(参考資料) ヒアリング調査回答者一覧

小字	世帯	対象者情報						
		性別	年齢	世帯構成	居住年数	出生地	谷瀬に住むきっかけ	※U・Iターンの場合 ・きっかけ、理由
平地	1	男	70代	夫婦	17年	谷瀬		定年
	2	男	80代	夫婦	50年	谷瀬		
	3	男	60代	夫婦	24年	谷瀬		
	4	男	60代	夫婦	1年半	谷瀬		定年
	5	女	50代	夫婦	1年半	果無		夫に付いてきた
		女	70代	夫婦、息子夫婦、祖母	53年	上野地 長殿で育つ	結婚	
	6	女	30代		5年		結婚	
		女	80代		83年	谷瀬		
7	女	30代	祖母・母・叔母	15年	谷瀬		家の都合で。	
		30代	単身	30年	上野地			
8	男	70代	単身 (妻子は榎原)	10年	北海道	中学三年生のころ、榎原。父が十津川で山仕事	自分の趣味 (農業、狩りなど)	
上地	9	女	80代	単身	20年 五條に40年	高津	義母が亡くなったので。	
	10	女	80代	単身 夫:五條の老人ホーム	55年	山崎	お見合い結婚	
		男	50代	夫婦、息子2人				
	11	女	80代		86年	谷瀬		戦争で戻ってきた。
		男	50代	夫婦、息子2人、祖母	50年	谷瀬		転勤で戻り結婚。
12	男	20代	単身	1年	横浜		地域協力おこし隊	
13	男	50代	兄と二人暮らし		谷瀬	15歳で家を出た。住む場所がなくなり戻った		
中切	14	女	60代	単身 夫は大阪勤務		谷瀬		
	15	男	30代	単身	2ヶ月	榎原・生駒		自営のため。
	16	男	80代	単身	80年	谷瀬		
西坊	17	女	50代	夫婦	26年	永井	結婚	
	18	男	80代	夫婦	89年	谷瀬		
		女	80代		87年	谷瀬		
	19	男	80代	夫婦	80年	谷瀬	仕事。十津川村内を転々	転勤
		女	70代			西中	結婚	
	20	女	70代	単身	40年	京都丹後	義母が亡くなった	
21	男	70代	夫婦	30年	谷瀬		定年、田畑の管理、両親の世話	
22	女	40代	夫婦	14年	高知県	夫の転勤		